



7 エコライフセミナー
カワシヅユガイ探し

6 達人を迎えて
つる細工教室



8 東京混声合唱団の葛巻公演
中学生に合唱指導



5 わくわくふるさと探検隊
夏野菜の収穫



4 俳句コンテスト
黛まどかさんと巡る吟行会



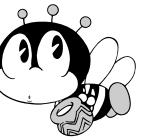
1 増田明美さん学校訪問
五日市小で走り方を指導



3 学習ボランティア養成講座
読み聞かせの練習

2006

みんなのまなび ダイジエスト



生涯学習推進本部（本部長・中村哲雄町長）では、生きがいある人生の創造と活力に満ちた地域社会の形成を目指し、皆さんの自主的な学習を応援しています。あなたは、この一年にどんな「まなび」を体験しましたか。ここでは、昨年行われた生涯学習関連事業をダイジエストで紹介します。

1 増田明美さんが学校訪問

元女子マラソンの日本最高記録保持者でスポーツジャーナリストの増田明美さんが六月二十八日、五日市小学校を訪れました。一緒にグラウンドを走りながら指導する増田さんの話に、子どもたちは真剣な様子で耳を傾けました。

2 見事勝利！チャレンジデー

十二回目の挑戦となった国際チャレンジデーは五月三十一日に行われ、本町の参加率は六四・四％で対戦

相手の鹿児島県上屋久町（参加率六〇・四％）に見事勝利。通算の対戦成績を五勝七敗としました。

3 学習ボランティアを養成

生涯学習推進本部では、学習活動を支援する人材育成を目的とした学習ボランティア養成講座を開設。レクリエーションリーダーと読み聞かせボランティアの二つのコースに、合わせて三十二人が受講しています。みんなの学びを地域に生かし、活力ある町づくりにつなげましょう。

4 俳句コンテスト五周年に

平成十四年度から開催している風と恋の俳句コンテストは、開催五周年を迎えました。これまでに応募された作品は、合計で四万六千四百六十二句に上り、「文化の薫る町」を全国にアピールする機会となっています。優秀作品の句碑を建立している俳句の小道（袖山高原、道の駅くずまき高原）は、町の新たな名所になりつつあります。

5 わくわくふるさと探検

自然体験や労働体験を通して自分たちが住む地域を知るわくわくふるさと探検隊。小学生の隊員たちは、平庭高原の植物の観察や安家森登山、野菜の収穫などを体験し、ふるさとの自然の恵みや地域の宝物をたくさん発見しました。

6 達人を迎えて創作教室

町内の達人を講師に迎えての創作教室。皆川竹男さん（70歳・江刈馬淵）から

はほうきづくりを、外久保薫雄さん（59歳・垂柳）からはつる細工を学びました。受講生からは「身近な自然に目を向け、その良さを再発見しながら楽しみを増やしていきたい」という声が聞かれました

7 エコライフセミナー開催

全三回の日程で行われたエコライフセミナーでは、町内の川や空、石を観察しました。講師の斎藤政宏さん（小岩井まきば園）は、「川辺にサクラソウが咲き、ホタルが舞い、星が輝く葛巻。まだ生かされていない自然を、楽しみながらアピールしていきましょう」と呼び掛けています。

8 東京混声合唱団が葛巻へ

文化庁主催「東京混声合唱団葛巻公演」が十一月十七日、葛巻中学校で行われ、町内の全中学生が本物の舞台芸術を堪能しました。合唱団との共演も実現し、会場には伸びやかなハーモニ

公民館図書室から

「ルパンの消息」

横山秀夫 著



人気絶頂の著者がデビュー前に書いた幻の処女作が、15年の時を経てついにペールを脱いだ。第9回サントリーミステリー大賞佳作。

「幻夜」

東野圭吾 著



あの女のすべてを知りたい。過去も目的も、真実の顔も…。名作「白夜行」から4年半。あの衝撃が、今ここに蘇る。長編エンタテインメント。

「孤宿の人」上・下

宮部みゆき 著



讃岐国丸海藩。この地に幕府の罪人・加賀殿が流されてくること。加賀殿の所業をなぞるかのように不可解な毒死や怪異が小藩を襲う。

俳句の楽しみ⑨

親子でこぼれ話

まず父がまわしてみせるこまわし

「コマの回し方をおしえてくれるお父さん。子どもに戻ったみたいになんて思っています。」

年がじょう

ことはふえて十まいに

「年賀状がふえた」ことを俳句にしたら、友達にふえたということがわかりました。

お年玉小さいじゅんに

くれました

「お年玉小さい順に」ということばから、作者には弟や妹がいるのがわかります。

◆

子どもの俳句で一番大切なことは、子どもが感じた本当のことを、五・七・五というリズムあることばにすることでしょう。

◆

五文字・七文字・五文字のリズムでことばを使うようになれば、世界で一番短い「俳句という詩」が作れるのです。

参考 蝸牛新社「小学生の俳句歳時記」